

ラミ転

名状し難いロリババアの様なモノ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

教室に飛んできた野球ボールにヘツシヨされて、死んだと思ったら、ラミアに転生したんだが周りに同族も居ないし、マツパだし、寒いんだが……。

(これは神様が、部下に野球しようぜと投げたボールが、天界を突き破って不幸にも、主人公の頭にダイレクトアタックし、爆発四散(物理)した後の物語である。)

※ルールに接触したらしくプロローグを改稿しました。例のアニメはやっぱりダメだったか……

目次

1 話 転生	4
プロローグ	1

プロローグ

天界、そこは神々が住まう聖なる領域。壮大なる神殿が建ち並び、それぞれの神殿にて神達が日々、自分に課せられた使命を全うしている。そして、そんな神達に奉仕する天使達が忙しそうに空を飛び回っている、そんな天界にて、ある神は呟いた。

「あーひまー、ここ最近やることないしー使命もとつくに終わっちゃったしなく」

この神は、自分の全うすべき使命を終え、暇を持って余ってしまったというようである。

そして、暇を持って余しすぎた神は思いつく。

「あつーそうだ！ちよつと前から人間達の間で流行ってる野球ってゲームしよ！確かボールを全力で投げあつてダメージを稼ぐんだっけ？」

この神、どうやら別のゲームと野球を混同しているようである。神の全力の投球を耐えられる者は同じ神だけなのだ……（白目

ちなみに野球は1830年代ごろに原型が出来たのだが、悠久の刻を生き続ける神にとって、190年ほど前のことなど、ちよつとで事足りるのだ。

しかし、野球はキャッチボールをやるとしても一人ではすることは出来ない。即ち、必然的に相手が必要になってくる。

「でも、私一人じゃ出来ないなく誰かいないかな？」

神が遊び相手を探していると、背から一對の翼を生やし大量の書類を抱えた、幸薄そうな天使が通りかかる。

「おーい！その権天使（下級天使の纏め役、軍隊であれば准尉や曹長に相当する）野球しようぜ☆」

「わっ!?!私でございますかっ!?!畏れ多いことでございます。上位天使の方々となされてはいかがでしょうか・・・」

権天使の彼は思った。神と野球なんてしたら物理的に消し飛んでしまう。そしてイチイチ仕事を押し付けてくる上位天使たちに、この面倒事を擦り付けようとするが……

「今、野球したいんだっ！いつくよ〜！」

哀れ、神の気まぐれに権天使の彼は選ばれてしまった。神は理不尽なのである。

神は己の余りある神力を無理矢理固め、具現化させたボールを初めて投げるとは思えない見事なフォームで、権天使に投げた。

『ゴウツ!!!』

「ヒッ！ヒイヒイヒイヒイ!!」

神の全力をもってして、投てきされたボールの初速は音速を優に超え光を追い抜きかねない速度で、彼の頭を掠め、衝撃波と轟音、そして彼の髪の毛を撒き散らしながら天界と下界を隔てる境界を突き破

り……

「んお？何だこのおと 『パァン!!!』……」

日本にある、とある高校の教室でつまらない授業に耐えきれず寝ていた。一人の不幸な青年の頭を爆発四散させるのであった。

1話 転生

1話 転生

背の高い針葉樹が鬱蒼と広がる森の中で『ソレ』はあった。

『ソレ』は卵であった。しかし、子供程の大きさの。形状は読者諸君が一番に思いつく鶏の卵の形状ではない。どちらかと言えば爬虫類が産む卵に似ている。

卵は中にいるナニかが孵化しようとしているのか、左右にコロコロと転がっている。転がった衝撃で卵にヒビが入っていき、そして……

「くるしんじゃぼけがああああ!!」

産声をあげた。

訳がわからん。教室で寝てたら、いきなりクツソ狭い所に閉じ込められてた。やっとブチ破ったと思ったら教室から森に移動してたんだが……

「たつくー……どこだよ! あゝ あゝ あゝ つ!」

なんか滅茶苦茶、幼く可愛らしい声が自分の口から出たんだが……
風邪でも引いたか?

『パサア』

つーか、この視界邪魔しまくっているヤツ何だ？鬱陶しい！

『ブチブチブチ』

「いってえ!!!」

ハッ？これ俺の髪の毛か？真っ白なうえに長いんだが……つてか
一体どうなって……

その時、主人公の思考は停止した。主人公は見てしまったのだ。己
の下半身を……

そして、暫くたって思考が動きだし

「ハアアアアアアア!?」

主人公は己の姿に驚愕するのであった。

訳がわからん（本日二回目）下半身を見つめれば17年間連れ添っ
た相棒は消滅し代わりになだらかな平原が出現したうえ、足がまるで
蛇のようなモノに変わっていたんだが……

「いや……まじでなんなんだよ!?そこはふつう、ていーえすまでだろ
!なんで『ラミア』になってんだよおおお!?」

作者：そう！主人公はラミアに転生してしまったのだ（笑）人間で
言うところ歳位のロリラミアに！ロリラミアっていいよね！大人ラミ
アもえつつちくていいけど、やっぱりロリのラミアもいいよn 《ボ

ゴオオ!》??? (早く進めて下さい。この変態。) ぐふっ! わかりましたああ……

さて、思わずラミアに転生してしまった主人公(名前未定)はこの先どうなっていくのだろうか?

主人公がいる森は背の高い針葉樹の森、背の高い樹木達のせいで草や低い所にある実は育たず、それを食べる草食動物はいない、狼を初めてとした肉食動物や魔物達は満足に獲物が取れず一年中飢えている。

そんな中に生まれた主人公はロクに戦う術《すべ》をもっておらず、下半身の鱗も柔らかか。見つければ即補食対象になるであろう。

これは主人公が必死に生きて成長していく物語。私は天から見守ろう、この子を……

(作者です。うん、さっそくガバリの気配が出てきた感じがしますね。自分には見える、この後の展開が。きつと何処かで齟齬が生じて更新が出来ないものが出来上がる未来が……まあ……気長に待っていていただいたら幸いです(汗))